

2018年1月 (No.343)

主な内容とページ

| | |
|----------------------------|----|
| 25年ぶりの業界トップ交代、一時的それとも地殻変動？ | 1 |
| 利益ではサムスンが圧倒的 | 3 |
| トップ交代、一時的それとも構造的 | 3 |
| メモリ市場の競争を戦略的に惹起 | 5 |
| サムスンの今後、メモリは独走体制へ | 6 |
| 中国、大市場と和戦両様の競争戦略 | 8 |
| サムスン電子とインテル、トップ争いの今後 | 9 |
| 業界トップ考(SRL だより) | 11 |

25年ぶりの業界トップ交代、一時的それとも地殻変動？

米インテルに変わり韓国サムスン電子が半導体の世界売上でトップになった。

1. 業界トップ企業の交代は25年ぶりで、メモリブームに乗ったサムスン電子の跳躍が奏功した。
2. 25年前のわが国 NEC からインテルへのトップ交代は、日米逆転の構造変化を示す動きだった。今回のトップ交代もそれに比類する動きか。今後を注目する必要がある。
3. 業界トップをめぐる競争は、産業全体に衝撃をもたらし、ひいては業界の勢力図を塗り替える力を秘める。今回は新たな勢力として台頭する中国との和戦両様の戦略が影響を増しそうだ。

業界トップ考

年の初めの本号は、業界トップをめぐる動き一色となった。他の話題も提供したかったが、トップの重さは大きく、その変化は多大なものを受け止めている。業界も企業もトップ次第の面があり、伸びている韓国サムスン電子、台湾 TSMC はその象徴ともいえ、業界全体さらには国力にも多大な貢献をもたらしている。

わが国半導体でも一時は世界トップまで上り詰め、そこに至る経営手腕を発揮した先達が少なくなかった。しかし、このところ苦戦で、現在の経営トップの受ける圧力は察するに余りあるものがある。韓国、台湾そして中国とわが国の周辺隣国は昇竜の勢いで、より彼我との違いが目立つ。

どうするか。問われているのは経営力であり、現状を把握し、変化に応じ、時には先取りするような挑戦しかない。劣勢は人材、技術、資本の欠如ではなく、経営能力の違いだ。トップは技術屋でも営業マンでも財務家でもない。なかなかプロの経営者が出て来ないのは、今の日本の半導体の競争力を示している。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL(半導体総合研究所)ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

お知らせ

本誌は「半導体総合研究所 月報」“SRL Monthly Report”として発行してきましたが、18年1月から SRL Monthly Report として発行することになりました。また、毎月15日発行としてきましたが、本号からは原則15日発行として該当月内発行に変更させていただきます。

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL(半導体総合研究所)の解釈と分析で表現したものです。

2018年 著作権所有 SRL(半導体総合研究所)

SRL Monthly Report

2018年1月(毎月1回発行)第29巻1号(通巻343号)

発行元:株式会社 SRL

〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35

TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023

編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

January 2018, No.343

Semicon Research Ltd.

3-1-35 Shibakubocho Nishitokyo-City, Tokyo Japan

188-0014 Mail: info@semiconresearch.co.jp

Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2018

購読料金1年分(12号)98,000円(税別)